

*研修時発表資料

パワーポイントで作成の添付ファイル「機関リポジトリ構築」

*研修時発表資料の状況設定

1. 「機関リポジトリ」という概念は周知の事実として説明を始める
2. 長崎県大学図書館協議会（以下、県大図協）の共同事業としての「機関リポジトリ」構築を目指す

*研修時発表内容抄録：

県大図協として共同で「機関リポジトリ」を構築し、その中で習得したノウハウを加盟各館に伝授し、それぞれの機関で「リポジトリ構築」が出来るように手助けすることを1つの目的とする。さらに、全国的にも珍しい協議会という共同体での事業として、「長崎学」という地域特性を活かしたデータベースの構築を図るものとする。収集範囲は加盟各館発行の1975年以降の紀要論文とし、当面著作権処理済のものを対象とする。システムは県大図協所有のサーバを利用し、PostgreSQL + PHPの開発言語を用いて公開に向けたプログラミングを進める。現在開発中のプロトタイプを紹介。具体的な登録作業、特徴（「長崎学」というカテゴリーのユニークなデータベース、郷土史研究への寄与、キーワード《県立長崎図書館の「郷土資料用語集（シソーラス）」》を付加することでオリジナリティーを持たせる）、今後の展望（収録範囲の拡大）等を説明する。

*研修時講師からの助言

1. 名古屋大学の山本氏からの質問で、OAI-PMHとは何かとの間に、メタデータを収集するためのプロトコルと回答。
2. 長崎大学の平林氏からの質問で、長崎大学での公開資料と重なるところがあるのではとの間に、実際には重ならないものも多くあると思うし、仮に重なったとしても利用者から見れば、それだけアプローチできる機会が増えることになるので、問題ないと考えていると回答。
3. 広島大学の尾崎さんからの意見で、広島大でも「平和学」というカテゴリーのDBを構築中で、長崎のようにこちらも地域で取り組んで行きたいと思っているので、頑張りたい。
4. 三重大学の佐藤先生からの質問で、論文だけで写真など画像の掲載は考えていないのかとの間に、今の所そこまでは考えておらず、それらは後継者に譲りたいと回答。

5. 北海道大学の杉田氏から、これは「機関リポジトリ」というよりも、「分野別リポジトリ」とか「地域リポジトリ」に入るもので、長崎研究のためのポータルサイトの構築として進めたらどうかとの助言。
6. 後日、名古屋大学の山本氏から、現在プロトタイプで構築のデータをハーベストできるようにテキスト化するプロトコルの紹介あり。
7. 佐藤先生からは、ここまで公開プログラムが出来ているのなら、これを発展させればいいのではとの助言。
8. 諸氏の話から、現在構築しているデータベースは「書誌データのみ」なので、これでは「リポジトリ」とは言えないということが判明→本文リンクが必要。

*長崎県大学図書館協議会加盟館への研修報告

長崎県大学図書館協議会の共同事業としての「機関リポジトリ」構築を目指すことを前提に、本研修会に参加した。そのため、加盟館の図書館職員への研修内容の報告と「長崎関係論文データベース」構築の課題と展望などについて協議する機会として、長崎県大学図書館協議会の実務研修会を開催した。

*長崎県大学図書館協議会実務研修会の実施内容

1. テーマ： 「機関リポジトリ」の概要 — 学術ポータル担当者研修会の報告 —

2. 目的

機関リポジトリを各大学で構築する必要性については、平成 18 年 3 月 23 日に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会の最終報告「学術情報基盤の今後の在り方について」の「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」の中でも、重要課題として取り上げられています。

しかし、県内では、長崎大学以外の各校に機関リポジトリの担当はなく、また、その概要も十分理解されていないことから、大学当局への説明に苦勞されているかと思えます。

今回、県大学図書館協議会として、国立情報学研究所主催の学術ポータル担当者研修会に参加しましたので、その報告をするとともに、「機関リポジトリ」の概要について、各館の理解を深めることを目的として、実務研修会を開催いたします。

3. 日 時： 平成 19 年 3 月 2 日（金）14 時～17 時

4. 場 所： 長崎大学附属図書館 1 階会議室

5. 内 容

- (1) 「機関リポジトリ」とは
- (2) ポータル担当者研修で学んだ著作権処理方法
- (3) 長崎大学機関リポジトリの紹介
- (4) リポジトリ構築ソフトの紹介とハーベスティングの仕組み等について
- (5) 当面の課題、今後の展望など

6. 実施結果

(1) 参加機関：8大学・短大

参加者：16名

(2) 報告内容

- ① 森茂樹（活水女子大学図書館）より、「機関リポジトリ」とは、ポータル担当者研修で学んだ著作権処理方法について、配布資料により研修報告、定義、用語、関係サイト・資料の紹介があった。

配付資料：「機関リポジトリ関係のWEBと資料紹介」

添付ファイル：機関レポジトリ関係のWEBと資料紹介.doc

- ② 平林昇（長崎大学附属図書館）より、長崎大学機関リポジトリについて、実際に教員対象に実施したプレゼンのデモと報告があった。

配付資料「長崎大学機関リポジトリについて」

- ③ 飯島芳典（長崎国際大学図書館）より、ハーベスティングの仕組み等について、当面の課題、今後の展望について、配布資料により研修報告と、リポジトリ・システムのパッケージソフトの紹介、国産オープンソースXooNIpsのデモ、OAI-PMHによるJuNii2仕様のハーベストのプログラム開発状況の説明があった。

配付資料「論文データの公開 リポジトリ・システムの構築」

添付ファイル：論文データ公開.ppt

7. 研修会での反響

- (1) 既に機関レポジトリを構築している大学、具体的に構築を検討している大学、まだ未検討の大学の図書館職員が一同に会し、また、内容も機関レポジトリの概要、用語、資料紹介など基本的な事項と、ハーベスティングの仕組みプログラム開発状況などの具体的な内容の説明を合わせて実施した。

- (2) 構築を検討している大学にとっては、リポジトリ・システムのソフト、構築に必要な経費、コンテンツの収集方法についてなど、具体的な情報の提供が必要であった。

- (3) 未検討の大学の図書館職員にとっては、大学評価等との視点から機関リポジトリの位置づけなど、今後、図書館内部ではなく、大学組織全体の中での取り組みの必要性について、情報提供やプレゼン技法などが必要であった。また、機関リポジトリなどはまだまだ本学とは無関係とされているところも、国立情報学研究所による紀要等電子化のサービスがいづれなくなるという認識を新たにし、その必要性について十分な理解を深めた。

- (4) 機関レポジトリ・システムの構築方法としては、パッケージソフトや国産オープンソースX o o N I p sの利用、ソフトを使わない独自システムでの公開によるJuNii2仕様のハーベストのプログラム自館開発などが考えられるが、予算や利用方法、サポート、開発体制などを考慮し検討することになる。先行館の積極的な情報提供やサポートを期待したい。
- (5) 県大学図書館協議会での合同研修会は、同一地域で情報交換を行いやすい面もあるが、規模や国立、公立、私立、また、大学と短大と種々の組織が混在するため、規模や前提条件が異なり、共同、共通な情報交換、研修が困難な点もあった。それを補完するため、国立・公立・私大・短大図書館協議会で、地区単位、同規模、同組織、構築段階での研修の必要性を感じた。
- (6) 県大図協で進めている「長崎学」のデータベースも、単なる書誌検索データベースの域を超え、OAI-PMHを持ったハーベスティング機能を備えることにより、「ポータルサイトからレポジトリ」への道も開けるのではないかとの展望も明らかにされた。

*受講者氏名・受講者番号・所属機関名

1. 受講者氏名：飯島 芳典
受講者番号：34
所属機関名：長崎県大学図書館協議会（長崎国際大学図書館）
2. 受講者氏名：森 茂樹
受講者番号：35
所属機関名：長崎県大学図書館協議会（活水女子大学図書館）